観光

平成17年度の誘客宣伝について

箱根・熱海観光キャンペーン（東名・海老名サービスエリア）

Q　次の2点について伺う。

1　愛知万博開催中と博覧会終了後の秋季冬季に分けて平成17年度誘客宣伝のスケジュールを検討しているのか、また、国内外の観光客に対して、それぞれ違った誘客宣伝を考えているか

2　中部国際空港セントレアの開港や平成18年度で静岡空港の開港により、今後、中部圏からの観光客の流入が期待できるが、どのような情報収集や分析をし、誘客対策の想定をしているか

A

1点目について、まず、愛知万博開催中の誘客対策として、愛知万博を意識した事業計画は持っていない。

愛知万博は、世界的な規模で開催されるが、期間の限定された一過性のイベントであり、内容も環境をテーマにパビリオンを利用した展示を中心としたものである。

これに対し、箱根は豊富な温泉や優れた自然景観を誇る癒し、休養の時を求める観光客が来遊する観光地であり、旅行を計画する場合、その目的は自ずと異なっている。

しかし、愛知万博への行き帰りに箱根に立ち寄っていただくこともできるので、7月に予定している熱海市との共同による東名・海老名サービスエリアでの観光展や南足柄市を含めた2市3町で構成している西さがみ観光協議会などの広域的なPRの機会を利用して箱根への誘客を図っていきたいと考えている。

次に、秋季・冬季の誘客宣伝については、10月に東名・海老名サービスエリアでススキや紅葉を前面に出した宣伝、そして、11月にはJR横浜駅で観光展を予定している。

また、海外に向けた誘客宣伝としては、国際観光プロモーション実施事業として、6月に韓国・ソウルで開催される国際旅行展への出展、秋口には訪日観光客が増えている台湾を対象としたシティーセールスの実施を予定している。

2点目について、静岡空港については、静岡空港フォーラムへ職員を派遣しており、SKY広域圏サミットでも情報を収集している。また、中部国際空港の利用実態については、海外に出かける旅行者にとって、国際線への乗り換えが短時間でできるなどのメリットがあるが、海外からの訪日客にとっては、在来線との接続などの面において不便な点もあるようなので、既設の空港との比較には不透明な部分もあり、今後、その利用状況などの動向を見守るとともに、エージェントなどを通しての情報収集に努めていきたいと考えている。

健康福祉

高齢者対策について

Q　次の3点について伺う。

1　「かかりつけ医」を持つことの推進について

2　町内医療機関に対する強化支援について

3　民間住宅を借り上げ、または買収し、グループホームを設置することについて

A

1点目について、診療時間外、特に夜間に具合が悪くなった時など、近くの「かかりつけ医」に対応していただければ、より安心度は高くなることから、引き続き「かかりつけ医」について、小田原医師会や町内医療機関と連携を図りながら推進していきたいと考えている。

2点目について、「箱根町診療所等整備資金利子補給金交付要綱」を整備し、診療所の開設や改修、また、医療機器の購入などに伴う高額な融資額の利子補給を行っているほか、町内の医師の皆さんに対して、町の地域医療を研究・研修等していただくための補助金を交付している。

なお、「かかりつけ医の推進」や「夜間診療における医療の確保」などの観点から、医療機関に対する支援強化策の必要性は十分認識しているので、今後、医師会の皆さんと真剣に議論し、協議をしてみたいと思っている。

3点目について、町内には現在、2箇所民間で運営しているグループホームがあるが、今回見直しが予定されている介護保険制度の中でも、益々増加する認知症高齢者や一人暮らし高齢者のために、地域の特性に応じた多様なサービスの提供が可能となるよう「地域密着型サービス」を考えていかなければならないとされ、「認知症高齢者グループホーム」もサービスの種類として、位置づけていることから、来年度改定を予定している「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」の中で、民間住宅の借り上げ等も含め、グループホーム設置の位置づけについて、十分に検討していきたいと考えている。